

# 2011年3月期第3四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

2011年1月  
大阪ガス株式会社

1

# I. 11.3期第3四半期実績

**インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています** : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。 <http://www.osakagas.co.jp/ir/>

**「見通し」に関する注意事項** : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

**ガス販売量に関する注記** : 全て、基準熱量を45MJ/m<sup>3</sup>として、表記しています。

**連結ガス販売量に関する注記** : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

**四半期表記に関する注記** : 特に断りのない限り、「四半期」は「四半期累計期間」を表します。

ただ今から、2011年3月期 第3四半期決算について、簡単にご説明させていただきます。

# 11.3期第3四半期決算のポイント

## ■ 概況

連結売上高	景気回復に伴うガス販売量の増加、泉北天然ガス発電所の全基稼動、不動産事業をはじめとする連結子会社の売上増加等により、 <b>前年比8.2%増収の8,198億円。</b>
連結営業利益	電力事業利益の増加はあるものの、LNG価格上昇に伴う原材料費の増加により、ガス粗利益が減少したことから、 <b>前年比22.1%減益の546億円。</b> 時期ずれ差益が3億円発生(前年同期の時期ずれ差益は263億円)。

## ■ ガス販売量

家庭用	<b>ほぼ前年並みの1,336百万m<sup>3</sup>。</b>
業務用	景気回復に伴うお客さま設備の稼動増加等により、 <b>前年比7.3%増加の4,247百万m<sup>3</sup>。</b>

## ■ その他

通期見通し	第3四半期実績で大きな乖離は見られていないことから、 <b>10月発表の見通しを据え置き。</b>
自己株式取得	19,999百万円(63,724千株)の自己株式の取得を完了。

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

3

2011年3月期 第3四半期は、増収・減益の決算となりました。

連結売上高は、景気回復に伴うガス販売量の増加や、泉北天然ガス発電所の全基稼動に加え、不動産事業をはじめとする連結子会社の売上増加等により、前年と比べて8.2%増収の8,198億円となりました。

連結営業利益は、泉北天然ガス発電所の全基稼動に伴う電力事業利益の増加はあるものの、LNG価格の上昇に伴う原材料費の増加により、ガス粗利益が減少したことから、前年と比べて22.1%減益の546億円となりました。なお、時期ずれ差益は3億円発生しています。

ガス販売量については、家庭用が、ほぼ前年並みの13億3,600万m<sup>3</sup>となりました。

業務用は、景気回復に伴うお客さま設備の稼動増加等により、前年を7.3%上回る42億4,700万m<sup>3</sup>となりました。

10月に発表しております通期の見通しについては、第3四半期実績で大きな乖離が見られなかったことから、据え置きといたします。

また、10月に発表いたしました自己株式の取得につきましては、金額にして約200億円、株数にして6,372万株の取得を完了しており、取得した株式は、今後、取締役会の決議を経て、消却する予定です。

なお、新規事業拡大投資については、第2四半期決算発表以降に新規案件は発生しておりません。

## 11.3期第3四半期ガス販売実績

45MJ/m <sup>3</sup>		A. 11.3期3Q	B. 10.3期3Q	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	6,997	6,963	+34	+0.5%
	新設工事件数(千件)	50	53	-4	-6.8%
	家庭用1戸当り販売量(m <sup>3</sup> /月)	25.6	25.6	0	0.0%
	家庭用	1,336	1,334	+1	+0.1%
	商・公・医療用	1,195	1,132	+64	+5.6%
	工業用	3,051	2,826	+226	+8.0%
	業務用計	4,247	3,957	+290	+7.3%
	他ガス事業者向け	347	321	+26	+8.0%
	(うち大口供給)	(3,608)	(3,354)	(+254)	(+7.6%)
	ガス販売量合計(百万m <sup>3</sup> )	5,929	5,613	+316	+5.6%
連結ガス販売量	5,954	5,637	+318	+5.6%	

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

4

大阪ガス個別のガス販売量は、前年を5.6%上回る59億2,900万m<sup>3</sup>となりました。

これは、先ほどご説明したように、主に業務用ガス販売の伸びによるものです。

内訳を見ますと、商業・公・医療用では、猛暑による夏場の空調需要の増加や、新規需要開発等により、前年を5.6%上回る11億9,500万m<sup>3</sup>となりました。

工業用では、景気回復に伴うお客さま設備の稼働増加や、新規需要開発等により、前年を8%上回る30億5,100万m<sup>3</sup>となりました。これは、リーマンショック前のピークである2008年3月期の第3四半期累計実績の92%の水準にとどまっており、景気は引き続き回復途上であると考えています。

# 11.3期第3四半期実績 I

連結：億円、( )内は連単倍率

	A. 11.3期3Q	B. 10.3期3Q	A-B	A-B/B(%)	備考
売上高	(1.30) 8,198	(1.31) 7,579	+618	+8.2%	ガス販売量の増加、 電力事業収益の増加、 不動産子会社売上増加等
営業利益	(1.81) 546	(1.48) 701	-154	-22.1%	ガス粗利益の減少等
経常利益	(1.63) 523	(1.32) 662	-138	-20.9%	持分法投資利益の増加
四半期純利益	(1.46) 297	(1.25) 395	-97	-24.7%	

		A. 11.3期3Q	B. 10.3期3Q	A-B
連結ガス販売量	百万m <sup>3</sup>	5,954	5,637	+318
時期ずれ差損益	億円	+3	+263	-260
為替レート	円/\$	86.9	93.6	-6.8
原油価格	\$/bbl	79.7	66.5	+13.2
連結子会社数		129	128	+1

11.3期3Q原油価格実績は、12月速報値までの平均。

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

先にご説明しました通り、売上高は、前年と比べて618億円増加の8,198億円で、営業利益は、前年と比べて154億円減少の546億円となりました。

下の表にありますように、前年と比べると、時期ずれ差益が260億円縮小しており、この影響を除いた実力ベースで見ると、利益は100億円程度増えていると考えています。

なお、第3四半期の実績については、ほぼ、10月に発表した通期見通しでの想定通りに進捗しています。

以上で、2011年3月期 第3四半期決算についてのご説明を終わらせていただきます。

# 11.3期第3四半期実績 II

連結:億円	A. 11.3期 3Q末	10.3期 3Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	13,917	14,367	14,838	-921	現預金の減少等
自己資本	6,500	6,539	6,666	-166	
有利子負債	5,420	5,438	5,390	+29	
在籍人員	20,022	19,343	19,268	+754	
自己資本比率	46.7%	45.5%	44.9%	+1.8%	

	A. 11.3期3Q	B. 10.3期3Q	A-B	備考
設備投資	495	663	-167	泉北発電所建設・LNG船建造の終了
減価償却費	718	699	+18	泉北発電所減価償却費の増加
フリーキャッシュフロー	-132	1,092	-1,224	

フリーキャッシュフロー=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出。

## 自己株式取得の完了

- 以下の主旨・内容による自己株式の取得計画を発表(2010年10月発表)
    - 主旨： 一株当たり指標の改善による株主還元、及び資本効率の向上
    - 取得株式の総数： 上限7,200万株(発行済み株式総数の3.35%)
    - 取得対価の総額： 上限200億円
    - 取得期間： 2010年11月1日～2011年2月28日
- ※取得株式数総数または取得対価総額が、上記いずれかに達した時点で取得を終了する。
- 取得株式の取扱い： 自己株式の取得がすべて終了した段階で、取締役会決議の上、消却する予定



- 取得結果
  - 取得株式の総数： 63,724千株(発行済み株式総数の2.97%)
  - 取得対価の総額： 19,999百万円(平均買付単価 約313.8円/株)
  - 取得期間： 2010年11月1日～2011年1月5日
  - 取得株式の取扱い： 取締役会議決議の上、消却予定

## II. 11.3期通期見通し

**10月発表時の見通しから、変更ありません。**



# 11.3期ガス販売見通し

- 10月発表時の見通しから、変更ありません。

45MJ/m <sup>3</sup>		A. 11.3期 見通し	B. 10.3期 実績	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	7,014	6,980	+34	+0.5%
	新設工事件数(千件)	76	85	-9	-10.5%
	家庭用1戸当り販売量(m <sup>3</sup> /月)	32.5	32.3	+0.2	+0.6%
	家庭用	2,259	2,244	+16	+0.7%
	商・公・医療用	1,576	1,543	+33	+2.1%
	工業用	4,086	3,877	+208	+5.4%
	業務用計	5,662	5,420	+241	+4.4%
	他ガス事業者向け	471	455	+16	+3.4%
	(うち大口供給)	(4,801)	(4,576)	(+225)	(+4.9%)
	ガス販売量合計(百万m <sup>3</sup> )	8,392	8,119	+272	+3.4%
連結ガス販売量		8,424	8,150	+273	+3.4%

# 11.3期見通し I

- 10月発表時の見通しから、変更ありません。 (\*)

連結:億円 ( )内は連単倍率	A. 11.3期 見通し	B. 10.3期 実績	A-B	A-B/B (%)
売上高	(1.30) 11,700	(1.30) 10,966	+733	+6.7%
営業利益	(1.63) 845	(1.51) 911	-66	-7.3%
経常利益	(1.51) 800	(1.32) 848	-48	-5.7%
当期純利益	(1.34) 450	(1.21) 483	-33	-7.0%
SVA	124	140	-15	-11.1%
連結ガス販売量	百万m <sup>3</sup> 8,424	8,150	+273	
時期ずれ差損益	億円 -73	267	-341	
為替レート	円/\$ 86.4	92.9	-6.5	4Q前提は85円/\$
原油価格	\$/bbl 81.0	69.4	+11.6	4Q前提は\$85/bbl

(\*) 為替レートおよび原油価格のみ、10月～12月実績を反映した見通しに置き換えています。

SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

## 11.3期見通し II

- 10月発表時の見通しから、変更ありません。

連結:億円	A. 11.3末見通し	B. 10.3末実績	A-B
総資産	14,776	14,838	-62
自己資本	6,705	6,666	+38
有利子負債	5,497	5,390	+106
在籍人員	19,546	19,268	+278
自己資本比率	45.4%	44.9%	+0.4%
	A. 11.3期見通し	B. 10.3期実績	A-B
設備投資	836	982	-145
減価償却費	984	954	+30
フリーキャッシュフロー	595	1,754	-1,158
ROA	3.0%	3.3%	-0.3%
ROE	6.7%	7.6%	-0.8%
EPS (円/株)	21.1	22.5	-1.3
BPS (円/株)	323.0	310.4	+12.6

Design Your Energy 夢ある明日を  


フリーキャッシュフロー= 11  
 営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)ー通常の設備投資による支出。

### III. 参考資料

# 11.3期第3四半期の売上高差異(対10.3期)

10.3期3Q → 11.3期3Q (差異)

7,579億円 8,198億円 (+618億円)

個別:+533億円

ガス売上高 +309億円  
・時期ずれ影響 +141億円  
・数量差等 +168億円

その他売上高 +224億円  
・附帯収益 +205億円  
・器具販売収益 +20億円

連結-個別:+85億円

アーハネックス +56億円  
大阪ガスメゾン +32億円

# 11.3期第3四半期の経常利益差異(対10.3期)

10.3期3Q → 11.3期3Q (差異)

662億円      523億円 (-138億円)

個別: -179億円

ガス粗利            -225億円  
・時期ずれ影響   -260億円  
・数量差等        +34億円

費用増加            -7億円  
(需要開発費等)

その他事業利益    +61億円  
・附帯利益        +51億円

連結-個別: +40億円

出光スノーレ        +15億円  
(北海油田:持分法適用会社)  
アーバネックス    +5億円  
大阪ガスメゾン    +4億円

# セグメント別実績

単位:億円	売上高		セグメント利益		備考
	11.3期 3Q	10.3期 3Q	11.3期 3Q	10.3期 3Q	
ガス	6,024	5,641	229	456	売上:ガス販売量増 利益:時期ずれ差益の縮小
LPG・電力・ その他エネルギー	1,221	1,004	168	112	売上:附帯収益増等 利益:附帯利益増等
海外エネルギー	83	83	39	29	持分法投資利益増(北海油田)
環境・非エネルギー	1,297	1,237	105	96	売上:不動産子会社売上増等 利益:不動産子会社利益増等
消去又は全社	-428	-387	18	11	
連結	8,198	7,579	562	706	

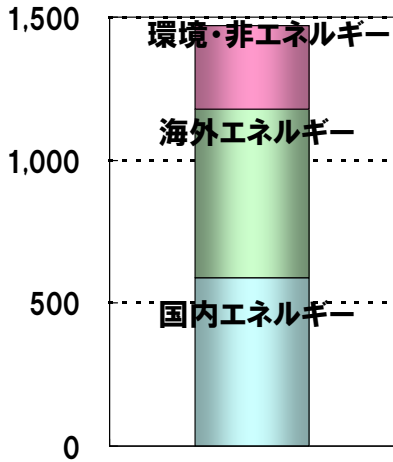
セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益

11.3期よりセグメントを変更しており、10.3期の実績は新セグメントへの組み換えを行った場合の値を示しています。

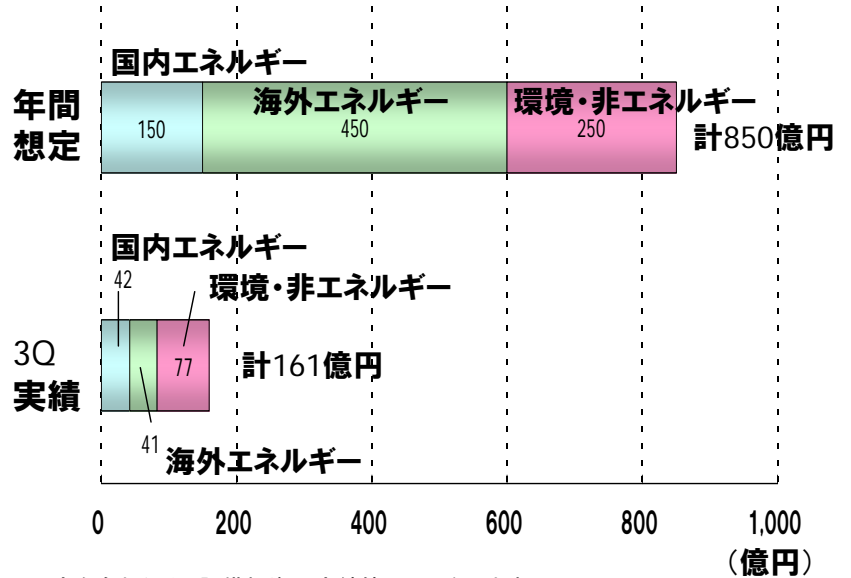
# 11.3期第3四半期新規事業拡大投資実績

- 10.3期からの累計意思決定済金額は約1,500億円(10.3期～14.3期計画額の37%)。
- 10.3期からの累計キャッシュアウト済金額は約610億円。

10.3期からの  
(億円) 累計意思決定済金額



11.3期の新規事業拡大投資



投資額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。

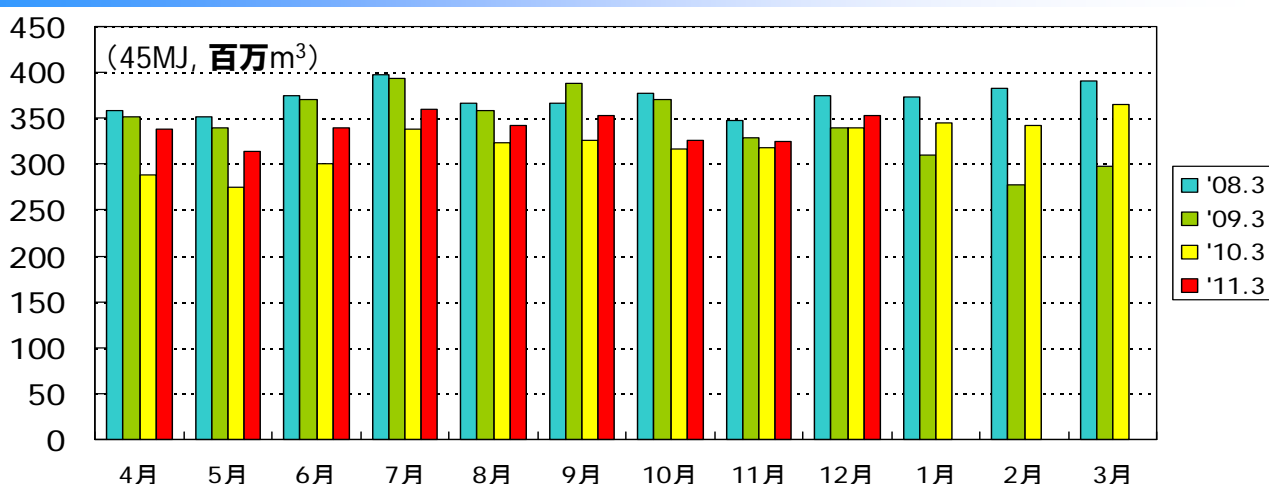


# ガス販売量の前年同期差異分析

	家庭用	商公医療用	工業用
調定件数	+0.1%	--	--
検針日数影響	-0.4%	+0.0%	--
気温影響	+0.7%	+4.2%	--
需要開発	} -0.3%	+2.5%	+3.5%
稼働増減その他		-1.0%	+4.5%
合計	+0.1%	+5.6%	+8.0%

- 商公医療用
  - お客さま先での省エネルギーによる設備稼働減少はあるが、猛暑による夏期の空調需要増加や、商業用大型物件や公用物件の新規需要開発が寄与。
- 工業用
  - 景気回復に伴う既存のお客さま設備の稼働増加と、燃料転換等の新規需要開発が寄与。

# 工業用ガス販売の月別推移



10.3期月別比較	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
対08.3期比(%)	80.5	78.5	80.5	85.1	88.2	89.2	83.8	91.8	90.4	92.4	92.4	93.5	87.0
対09.3期比(%)	82.0	81.1	81.1	86.0	90.4	84.0	85.1	96.8	99.6	111.3	122.8	122.6	93.9

11.3期月別比較	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		累計
対08.3期比(%)	94.5	89.6	90.9	90.7	93.1	96.7	86.5	93.6	94.2	...	92.2
対10.3期比(%)	117.4	114.2	112.9	106.6	105.5	108.3	103.2	102.0	104.2	...	108.0

- 2010年1月以降、前年を上回っているものの、リーマン・ショック前(2008.3期)の水準には達していない。

# 年度見通しに対するリスク要因

## ■ 気温・水温

- 気温・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。

## ■ 原油価格

- LNG価格は原油価格にリンクするために、原油価格1\$/bblの変化に対して、今年度第4四半期の粗利益は1億円変動する可能性がある。

## ■ 為替レート

- LNG価格は米ドル・円の為替レートにリンクするために、為替レート1円/\$の変化に対して、今年度第4四半期の粗利益は9億円変動する可能性がある。

## ■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

## ■ 金利

- 金利1%の変動に対して、今年度第4四半期の連結営業外費用が1億円変動する可能性がある。